

栗の小径 (長野県^{おぶせまち}小布施町)



写真 小布施松川小水力発電所

小布施町は、県北部の長野盆地に位置し、周囲を千曲川など3つの川と雁田山^{かりたさん}に囲まれた、人口約11,000人、県内で最も面積の小さい町である。小布施町では、町民、行政、民間企業が一体となった様々な形態のまちづくりが行われてきた。

まちづくりの一つに、今から約40年前の1980年代にスタートした「小布施町並み修景事業」がある。古い町並みを単に保存するのではなく、元の景観に通じる要素を残しつつ、古い建物は可能な限り再利用し、新築の建物は、建築の規模、様式、形、色等を既存の建物群と調和するものにして、住民の生活に溶け込んだまとまりのある新たな景観をつくっている。

「栗の小径」(表紙写真)は、その一環として整備された遊歩道である。名産の栗の間伐材が敷きつめられた、木の感触が足に優しいやすらぎの小径である。土色の壁と瓦屋根のコントラストが情緒ある空間を生み出している。今では年間約100万人の観光客が訪れる信州屈指の観光地となった。

またあたらしいまちづくりとして、「小布施松川小水力発電所」(写真)が注目を浴びている。小布施町を流れる松川から取水する用水路を活用した発電所である。町内における自然エネルギーの利活用をテーマとした試みは、今後SDGsの取組みにも一役担うであろう。

<参考>
小布施町

<https://www.town.obuse.nagano.jp/>

自然電力グループ

<https://www.shizenenergy.net/2018/11/27/shizen-energy-complete-its-first-smallhydro-energy-business-in-nagano/>

(表紙の写真)

栗の小径

場所：長野県小布施町



■アクセス:

●JR長野駅から電車長野電鉄で約30分

●上越JCTから上越自動車道で約60分、小布施スマートIC下車